

2015年9月24日

新しい事業用車両（牽引車両）を導入します ～排雪板を備え、降雪時の列車運行への影響を軽減させます～

京王電鉄株式会社（本社：東京都多摩市、会長兼社長：永田 正）では、新しい**事業用車両（総合高速検測車や資材の運搬用貨車の牽引車両）**を導入します。

今回導入する事業用車両には排雪板を備え、**降雪時に運行させることで線路上の除雪を行い、列車運行への影響を軽減**させます。

前面塗装は、営業列車との差別化および夜間走行時の視認性を考慮し、黄色にしました。

9月下旬から日中、京王線で機能確認等の試運転を開始します。

詳細は以下のとおりです。



排雪板

《新しい事業用車両》

新造車両について

1. 導入車両数 2両
2. 全 長 20m/両
3. 重 量 37.0トン/両
4. 車体構造 ステンレス車体（先頭は鋼製）
5. 運行路線 京王線全線
6. 特 徴
 - ・総合高速検測車や運搬用貨車を牽引します。
 - ・排雪板を備え、降雪時に運行させることで線路上の除雪を行います。

以上

【参考】総合高速検測車「Dynamic Analytical eXpress（ダックス）」について

営業列車と同じ速度で軌道・架線検測が可能な総合高速検測車を、2008年から京王線に導入しています。

軌道および架線は、列車走行時に繰返される負荷により、摩耗・変形等が生じ、徐々に劣化していきます。その劣化状況を定期的・定量的に検測し、そのデータを基に、軌道および架線の補修を実施することで、運転保安の確保と快適な乗り心地を維持しています。

総合高速検測車の導入により、検測精度の向上、検測周期の短縮化が可能となりました。



《総合高速検測車編成（左右は既存の牽引車両）》